



広報

www.jalc.or.jp

第406号

2008年1月10日

造園協

新春特別号

「造園建設業は市民と仲間となる」
プロの知識・技術を生かした協働を

発行／社団法人日本造園建設業協会（Japan Landscape Constructors Association） 創刊／昭和49年6月1日 〒113-0033 東京都文京区本郷2-17-17 井門本郷ビル2階 TEL 03（5684）0011 FAX 03（5684）0012



白神山地のブナ林【岳岱自然観察教育林】（だけだいしぜんかんさつきょういくりん）

白神山地は、秋田県と青森県にまたがる約13万haに及ぶ広大な山地帯の総称です。うち原生的なブナ林で占められている区域16,971haが平成5年12月に世界自然遺産に登録されました。白神山地の特徴は、人為の影響をほとんど受けていない源流域が集中し、分断されないまま原生的なブナ天然林が世界最大級でほぼ純林として分布していることにあります。また、このブナ天然林には、ブナ、サワグルミ、ミズナラ等の落葉広葉樹が分布し、白神山地全体が森林の博物館的環境を呈しています。白神山地の【岳岱自然観察教育林】は、世界自然遺産地域外であるが、コケむした岩塊とブナに覆われた約12haのブナ原生林の中は、1.8kmの歩道が整備されており、世界自然遺産に登録された白神山地（コア部は立入り禁止）の重厚な趣を体験できる数少ない自然観察林です。（文は「藤里だより」参照）

（写真提供：東北森林管理局藤里森林センター）

2008年

謹賀新年

（社）日本造園建設業協会

会長 佐藤 四郎

年頭にあたって



新年明けましておめでとうございます。本年もこうしてみなさまと新年を迎えられたことを大変うれしく思います。

本年の干支は子（鼠）であります。ことわざの「窮鼠猫を囓む」「袋の鼠等、また衛生害獣の代表とされるなど、どちらかと言うとマイナスイメージが強い動物ですが、一部地域では大黒天の神使とされ、五穀豊穡に不可欠な生き物とされたり、ウォルト・ディズニーが飼っていたネズミをモデルとし、1928年に初めて登場したミッキーマウスなどその愛くるしい姿と動きから、物語やアニメのキャラクターとして取り上げられる人間生活に馴染み深い生き物であります。

さて、昨年1月のテレビ情報番組の不幸事や不一家の偽装から始まり、ガス湯沸かし器の事故、遊園地コースター事故、渋谷スバの事故、朝青龍事件、阿部首相辞任、NOVA問題やミートホープ事件、赤福偽装事件、11月には老舗偽装や守屋前次官事件などほぼ毎月のように企業や政治、また個人における不祥事や偽装があり、ニュース番組でどれほどの人が頭を下げている姿を目にしたことでしょうか。

まさに「昨年の漢字」第1位の「偽」を象徴した年であり、一昨年の「命」や2年前の「愛」と比較して明るいニュースが少なかった年であったように感じます。

一方、我々産業界に関連する環境問題はニュースや新聞紙面上で目にしない日は無いほど頻繁であり、日本国内のみならず世界の大きなニュースであり、昨年の世界の文字

というものがあれば、間違いなく「環境」が第1位であったと思います。

実際にノーベル平和賞も環境問題を訴えたアル・ゴア氏の「不都合な真実」が評価され、これまで実績にのみしか授与されなかったこの賞が、これから行われる取り組みに寄与することで受賞したのは、環境問題が世界の常識であると言うことの証明であると思います。

2004年に樹木を植えたことによりノーベル平和賞を受賞したワンガリ・マタ伊さんと共に我々造園業界にとってはフォーウィンドのニュースであります。

私も当協会の会長2年目の年として、「VISION 21」に沿った施策を進めるため、一昨年に続き会員の皆様の協力を得「全国造園フェスティバル」を行い、後で記事になっている新春座談会のテーマである「造園建設業は市民と仲間となる」という造園業界の広がりを推し進める一方、皆様には何かとご不便をおかけしますが、本部事務所の移転など経費の抜本的な見直しを進めており、本年もより一層の努力を行っていく所存であります。

昨年私の好きな言葉として話をさせて頂いた「ストロングウィル」「強いやる気」を活動指針のコアとし、会員の皆様と共に良い一年を送りたいと考えております。

「鼠年」は十二支が一巡し、一番最初の干支であります。

会員一同健康には十二分注意を払い、初心に立ち返り素晴らしい一年を過ごしましょう。

新春特別号 座談会



座談会出席者

下平尾 文子 氏 (札幌市で都市公園業務等に従事、前札幌市中央区長)

中 道 光 子 氏 (グリーンアドバイザー・東京事業委員長)

祐 乗 坊 進 氏 (環境デザイナー・環境カウンセラー・ゆう環境デザイン計画代表)

鈴 木 誠 司 氏 (日造協・総務委員、株日比谷アメニス)

関 根 武 氏 (日造協・事業委員、内山緑地建設株)

五十嵐 誠 氏 (同会) (日造協・副会長兼専務理事)

座談会にあたって

五十嵐「環境の世紀」「緑の世紀」といわれる21世紀において、『作庭記』以来、脈々とその体系化された造園技術を継承、発展、駆使し、庭園だけではなく、都市公園、都市緑化をはじめとして、あらゆる緑の創出を担ってきたとの自負のある造園建設業が、いよいよその本領を発揮すべき時代が来たと思ったものの、実際に、公園・緑化予算の縮減などもあり、十分にその役割を果たし切れていません。

こうしたことから、積極的に、時代の流れにあった仕事の領域を拡大していく

ことが必要だと思つていますが、その分野は、地球温暖化やヒートアイランド対策にはじまつて、景観法の施行による良好な景観の創造や観光対策、さらには、温暖化と同様に世界的な課題である生物多様性の問題があり、防災や防犯、少子高齢化なども踏まえた安全・安心なまちづくりへの対応など、造園が取り組まねばならない領域は確実に広がっています。

具体的に言うと、屋上などの特殊緑化技術も造園であり、ガーデンングなどの個人のお庭、さらに、里山の保全・活用などについて

も、私たち造園の活躍の場であると思っています。

また、指定管理者制度が導入され、これまでの整備と管理に、運営を加え、管理運営に自らの創意工夫を持って取り組める時代になりました。このような活動領域の広がりは、市民の皆様と触れ合う機会の増大にもつながっており、私たちはもつと、市民の方々と連携が図れないかと考えてきました。

旧来、私たちのどこかに、黙々と働く職人気質というか、世界に誇る日本庭園を作る技術を持つ孤高の技術集団であることをよしとした時もあったのかもしれないが、多くの方々に造園を理解してもらうのが近年の課題となっています。

こうした中で、06年から「全国造園フェスティバル」を開催し、造園的な知恵を示すことによって、造園や造園建設業を理解していただく活動を始めたところです。

造園建設業は、生きものの技術をベースにした感性を持った産業であることが特色で、環境を重視する21世紀の主役として活躍できる産業となるために、市民の方々の理解を得て、ご支援いただける業になりたいと思っています。

こうしたことから、本日 の座談会は、日頃から市民の方々と接し、市民とともに活動する実体験が豊富な先生方からお話、お知恵をいただければと、お集まりいただきました。

VISION 21
 緑を活かし共に生きる
 安心・安全な国土と都市づくり、農林で豊かな心を育む、「緑の景観」実現、創造事業をめぐって

Action program
VISION 21
 日通協のアクションプログラム

緑を活かし共に生きる
 安心・安全な国土と都市づくり、農林で豊かな心を育む、
 「緑の景観」実現、創造事業をめぐって

「ビジョン21」と「全国造園フェスティバル」

五十嵐 先生方からお話を
の対応といえます。

お聞きする前に、近年の社会情勢を踏まえて、日造協の将来を見据え策定した「VISION 21」（ビジョン21）や06年に初開催した「全国造園フェスティバル」について、あらかじめ資料としてお送りしましたが、鈴木さんと関根さんからご紹介をさせていただきたいと思っています。

また、指定管理者制度ができ、都市公園等も制度の対象となり、日造協の会員も日々の運営に務め、市民、NPOの方々と連携していただくことが重要課題になっていきます。このため、「全国造園フェスティバル」を計画し、造園のPRとともに、市民とともにある産業を目指していることなどを、ア

鈴木 06年に、21世紀は緑の世紀、環境の世紀ということで、日造協の羅針盤となる「ビジョン21」を作成しました。

日造協のさまざまな課題については、我々の業界だけでなく進めていけるものとそうでないものがあります。

ポイントとは5つの目標と7つの重要課題になっていますが、大きく捉えると環境の世紀への対応、国際社会への対応、参画社会へ

が、参画社会への対応はそれぞれ市民の方々との連携が不可欠です。

市民参加はさまざまな場面で進んでいます。花や

緑というコンテンツは、市を凝らし、全国145会

民の方々が接しやすいものであると考えています。「造園建設業」というと「建設業」の一業種で近寄りがたいイメージがありますが、実際の仕事は、市民の方々が身近に感じるものではないかと思っています。

場で開催され、NHKのニュースなどでも各地の活動が取り上げられました。協会が理解を求めている造園について、市民によりよく知ってもらうという課題の達成は簡単ではありませんが、継続は力なりで、

「造園」という言葉があるということ、そういう業界があり、そこで働く人がいるということをまず、知っていたことから始めたと思います。

造園の意味、造園の仕事
をわかってもらう、体感し
てもらうことを主眼に、06
年の「都市公園法施行50周
年」という節目の年に初開
催し、2回目の07年は、会
員の皆さんがそれぞれ工夫

五十嵐 我々は「日本造
園建設業協会」と、「造園」
という言葉を使っています
が、高校や大学などでこれ
まで「造園」を冠していたた
けで、学科や学部が、時代を背
景として、「環境」などの

いう言葉に対する、市民の

名称に変わるなど、「造園」という言葉が一部失われてきている面もあります。

こうした中、私たち「造園業」、また、「造園」という言葉に対する、市民の感覚はどのようなものなのかをお聞きしたいと思います。

下平尾 三十数年間市役所に勤め、二十数年間は、公園をはじめ、自然保護などの緑化関係に携わってきた

ため、造園業界の方々はパートナ―であり、緑に関する公共事業を担ってこられた業界であることを重々承知しています。そうした意味で、一般の市民の方々は造園業について持つているイメージは違うと思います。

また、土木や建築の方々ともお仕事をさせていただ

き、それぞれの特性も認識しており、造園は、植物、自然を扱う技術を持つている技術者の集団であり、専門的な業だと思っています。

私の最後の仕事となった区長は、事務職ですので、技術職として、緑化や自然保護に直接かわかることはなくなりましたが、逆に、今回のお話のテーマになっている市民の方々にどう理解いただき、協力していくかということが仕事になりました。

そんな経験から、造園業を市民の方々がどうみているのかというと、市民の多くは、造園を理解しておらず、それ以前に造園自体をまったく意識していないし、知らないと思います。

土木と造園の違いなども、何となくしかわからな
いと思います。

ただ、北海道の造園業の方々は、驚くことに、戦後荒廃した街を、なんとか花で市民の心を癒せないかと、昭和27年に、大通公園を花で飾る取り組みをボランティアで始められました。

そうやって公園にくら
れた花壇には、「○○造園
」「○○庭園」など、提供し
た会社の名前が入っていま
す。まちの風物詩として現
在も続き、市民の方々が楽
しむだけでなく、観光に來
られた方々にも喜ばれてい
ます。

こうした機会に、花壇の提供企業をみて、こういう

プロの知識・技術を生かした協働を ニーズ対応から先取りの時代に

2008 特集号

民のニーズを私たちが直接反映、提案していくことが重要になり、これから先は、ニーズに対応するだけではなく、ニーズを見越した対応ができるかどうかが大切になってくるのだと、お話を聞いていました。

関根 いままで市民の方に業者から積極的に関わりやすく説明することはあまりなく、必要に迫られて行っていたという程度ではなかったかと思えます。

しかし、この2、3年、市民の方々と接する機会が増え、そうした仕事が増えていく中で、ようやく皆さんがいわれた市民感覚がわかってきたところで、市民の視点から考える必要性を感じていたところです。

進められていくのだと思います。このためにも造園の概念を市民の方々に、少しずつでも伝えられるよう努力していきたいと思えます。

五十嵐 造園建設業という「建設業」という言葉については…

祐葉坊 造園建設業より植木屋さんの方が市民感覚では分かりやすいですが、実際の造園建設業は、市民がイメージする植木屋さんより、はるかに幅広い仕事をやっているわけで、そうした部分については、もっと

声を上げて感心し、大変良い体験活動になります。造園屋さんのプロの仕事を直にみる機会というのはなかなかありません。

全国で緑に関するさまざまな取り組みが進められる中で、緑に関するボランティアリーダーの養成も進められています。こうした前向きな取り組みは喜ばしいことなのですが、一般の市民の方たちよりちょっと知識を持った市民が、初心者に教えていく手法が多く、率直に言って、これだと緑を育てていく上で技術的な

くることになるのです。

また、行政も私たちが、雑木林の管理作業をやらせてくれというところ、そこは業者に発注しているからダメだといわれることがあります。でも、業者の方に直接話をすると、どうぞどうぞと言ってくれます。きちんと話をすれば理解してもらえるのです。この場所は業者に発注し、こは市民ボランティアでという分け方ではなく、市民にできること、専門家に任せることというスキル、技術で分けるなどのプロとアマチュアの

わけて必要でしょう。

五十嵐 剪定などを市民に教え、裾野を広げていくというお話がありました。こうしたことへの抵抗など



中道 光子氏

スキルを上手くアピールした例だと思えます。著名な方に資格を持ってもらうことで、世の中に知ってもらう。こういう方法も有効なPR方法だと思います。そういう点でも、市民の方々に身近に知っていたく努力と工夫が大事だと思います。

役所も変化し、そういう市民感覚がわかりやすい言葉、表現を使うことが大事だと思います。

また、先ほどの話で、除草など、市民にお手伝いしていただけるものをやっていたことは、市民参加の面からも、また、財政の厳しくなった行政において、緑をきちんと管理する点でも、予算を効率的に活用する上で大切なことだと思います。

中道 公園等の管理について、財政が厳しく適切な管理ができないと聞くこともあり、出発点が違っているというのですね。今後、これらの資格自体をもっと世の中に知ってもらう施策を検討しています。

祐葉坊 「野菜ソムリエ」という資格がテレビなどで取り上げられていますが、この資格は民間の一企業が持っている認定で、一つの



賀 春

社団法人 日本造園建設業協会

会 長 佐藤 四郎
副 会 長 藤巻 司郎
副会長兼専務理事 五十嵐 誠
常務理事 小林 脩
理 事

総支部長
北海道 早坂 有弘
東北 佐々木 吉和
関東 和田 新也
北陸 久郷 慎治
中部 赤崎 幹男

監 事

岩水 勝盛
梅原 二郎
田村 正雄

吉村 元男
涌井 史郎
渡邊 宣昭
和田 新也

丸山 寿太郎
福島 偉人
平田 匡宏
樋口 敬記
早坂 有弘
西岸 芳雄
富田 祐次
高橋 孝志
砂川 正美
杉本 邦江
杉尾 尤一
佐々木 吉和
櫻井 正昭
坂上 信明
近藤 公夫
小泉 洋一
熊谷 和男
久保 慎治
久郷 文二
木下 慎一
角地 徳久
大坪 貞保
井上 剛宏
伊藤 英昌
市川 五十男
赤崎 幹男

日造協 新春座談会「造園建設業は市民と仲間となる」
協働の機会拡大 請負から提案へ

と思います。

東京都は日比谷公園で、花壇の一部をデザインから管理までの費用負担を含め、現行の指定管理者でも取り入れられる方法だと思ひます。環境や緑に関する社会貢献として、費用や労力を捻出していただく企業のお力を借りることで、行政の経費を軽減しながら、公園をこれまでよりも快適にすることが、企業や市民の協力で可能になると思ひます。

公園で活動していると、そこを通る人たちが、声をかけてくれるようになり、今こんなことをしてるんですと話すことで、花壇や公園への理解が深まります。

全国に大きな公園から小さな公園までさまざまな皆さんの公園があると思ひますが、こうした公園などの樹木の剪定や管理作業の際に、お仕事でやられていてる方が、市民の方々と一緒に活動したり、触れ合う場を設けることで、市民の方々が今まで以上に公園への愛着を感じることができると思ひます。

業者に出しているからとか、市民ボランティアの場合だから、業者は関係ないというのではなく、それぞれが持っている、経済力、技術・知識、労力をコーディネートすること、それぞれ

だけを考えると、来場者を増やすための施策を考案、実施するイベント屋さん、施設の維持管理だけを考えるとマネジメント屋さんの仕事ということになります。

市民が参加したくなるPRが重要

効率的な
管理運営

企業や市民の協力でこそ可能に

らえて、市民にわかつてもらえていないということは多々あります。ブロック塀から生垣へのつくり替えなども、地震でのブロック塀の倒壊防止といった安全・安心面、景観を改善するということから各自自治体が助

活者市民の視点で参加、協力したくなるPRも大切ですよ。

自分の家のブロック塀を生垣に変えるということは、どういふことなのか。生垣は、都市の中では昆虫や小動物が身を隠したり移動し

日造協のビジョンに対するアクシヨンプログラムもありますが、日造協のアクシオンではなく、市民がやってみようと思うアクシヨンプログラムを市民の

めてくると同様に、造園もこれまで見過ごしていた隣接し合う新たな領域に展開していくことが求められていると思います。そのときに、花には花の専門家が、いるように、何でも自分たちでするのはなく、造園

までいつていないのが現状
 かも知れません。しかし、
 先ほど、札幌で昭和27年か
 ら、造園企業が花壇を提供
 し続けてきたお話があるよ
 うに頑張らないといけませ
 ん。下平尾さんいかがです
 か。

う生きものが生息できる緑があることが、住まいの環境を改善し、結果として生物の多様性にもつながっていきます。

地球温暖化やヒートアイランド現象への対応でも、あなたの家のブロック塀を生垣にすると、CO₂の吸収をはじめ、さまざまな緑

ドイツは、そうした提案が非常に上手いと思います。ドイツ各地で開催される環境イベントで、政府や地方公共団体等のそうした市民の視点から緑化や自然保全などに取り組みたいようなパンフレットがいろいろ用意され、配布されています。

が、将来につながるっていく
のではないのでしょうか。

一つ辛口なことを申し上げると、全国造園フェスティバルは会期が短く予算にも制約があるのでしょうが、でも会場人口の写真をみると、どこにでもあるブランターにフツの花を植えただけのもので、何のア

支部長

プロの知識・技術を生かした協働を 2008 特集号 へのさまざまな期待とその対応

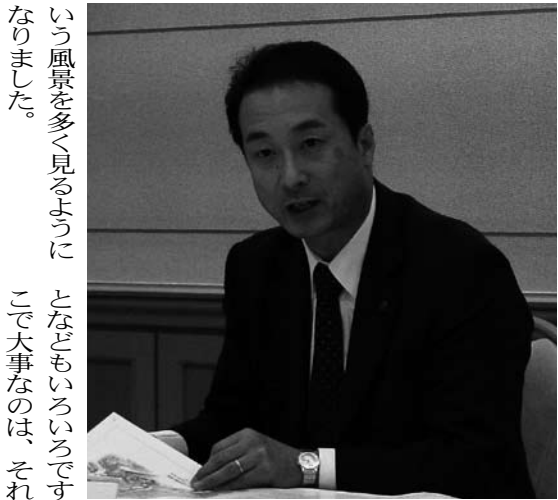
す。札幌の顔・大通公園で長く継続してきたことにより、評価が得られております。デザイン面では、派手な目立つものが多いといえますが、賑わいという面では、私などは十分ではないかと思っています。また、一部ではボーダー花壇など、市民参加によるデザインされた花壇づくりに波及し、実施されています。

あれだけの花壇の整備維持管理にかかる費用は年間相当なものと思います。が、終戦間もない大変な時代の中で始められ、今日まで続けられていることを素晴らしく思っています。

これからの時代は、こうした活動を、行政と市民社会がきちんと評価していくことも、継続、発展させていく上で、大事なところなのかもしれません。

五十嵐 我々も継続して質を高めていく努力をしなければなりません。さて、造園のイメージから、市民の方々のアピール方法などについてのご意見をいただきましたが、造園建設業への期待などについて、祐乗坊さんいかがですか。

祐乗坊 日本の場合、公園はこれまで市民にとって目的的に利用する公共施設というイメージの存在だったような感じがします。しかし、近年は市民生活の延長としてのアウトリピング的な利用が多く見受けられるようになりました。特別な目的もなく、ただ公園に行つて本を読むとか、そう



鈴木 誠司氏

いう風景を多く見るようになりました。

公園の維持管理に参加するといふだけではなく、こうした日常生活の中で公園を利用するといった関わり方も大切で、こうした生活との結びつきが強くなっていることを嬉しく感じています。

街中ならばアミューズメント性があつて、住宅地なら自宅の庭的な利用であったり、そういう生活に溶け込んだ関係を生むことができる公園が良いのではないのでしょうか。

市民参加やアダプト制度などの関わり方もありますが、こうした制度となる、どうしても制度の枠の中だけになってしまいがちで、関わっている人とそうでない人がギクシャクしたりすることもあります。

公園は、誰もが利用する場であり、もつと日常的に生活と緑と公園が結び付いていけばいいと思います。市民参加型の管理では、週に1回から年に数回くらいなど参加者の関わり方の頻度も幅があり、やりたいこ

となどいろいろです。そこで大事なことは、それらの異なる思いをうまく束ねて、一つの力にしていくなか、営力というんでしょうか、そういう運営のノウハウも

これから求められてくることだと思えます。市民が自分たちの身近な公園やみどりの管理と関わっていくのを私は「まちに自分の手垢をつける」と言っています。これは私のまちづくりの信念ですが、いろいろな手垢のつけ方があつた方が、まちや環境、そして人も豊かになるのだと考えています。

五十嵐 グリーンアドバイザーというところで、いろいろな人から、お話を聞く機会も多いと思いますが、人々はどういう緑を求めているのでしょうか。

中道 都市部と郊外、さらに個人個人で異なると思いますが、一般的に土に触れる、植物、自然に触れる機会が少なくなっていると思

います。マンションなどでそういう場所がまったくなかったり、庭はあつたけれど、車を止めるのでなくなつてしまつたとか、最近の子どもたちは自然に触れる機会がどんどん減つていくように思います。

特に小さなお子さんには、植物に水をあげたり、手をかけてあげるとそれに応えてくれ、また枯らして死なせてしまうなどの実際の経験が生きて、命について学べる大切な機会となり、花が咲く、実がなる、さらにそれを食べてみる、きの嬉しさを知ることがで

ます。植物は生命や自然の不思議や偉大さの象徴であり、小さい頃の体験が大人になつても現れてくるように思えます。

自宅の庭や近くの原っぱなどで、そうした体験ができなくなった現在、公園はこれに変わる大切な場であり、公園に行く、そうした生きものの触れ合い方を教えてくれる専門家がいて、子どもたちが自然に触れる機会が増え、緑を大切にし、環境に配慮できる人々が増えるはずで

す。また、人々もそうした緑を求めているのではない

でしょうか。下平尾 いろいろなみどりをいかにネットワークしていくかが課題です。そうすることで市民が豊かなみどりを享受できると考えています。現在、公園はほとんどつくられる時代ではなく、ストックの活用を考える時代です。あまり利用されなくなつてしまつた公園のリニューアルなども重要で、こうしたものについて

も行政主導ではなく、住民の方々の提案をどう生かしていくかを話し合いながら進めていくことが不可欠になっていきます。

は、泥棒などを招きにくく、犯罪なども起こりにくいようです。

ちょうど私が区長の頃に、全国的に子どもたちが被害にあつた事件が相次いだこともあり、市民の方々に、地域に目を向けてもらい、児童の登下校について

も目をつけてきて、プランターを置くということになったり、管理のお手伝いをしようということになります。また、造園業の方々は、それぞれの地域に根付いていて、会社の手をパトロールという名前を

するという協会の役割のほかに、これからは造園建設業が社会貢献しているかどうかをアピールすることをしなければなりません。

私たちのやっている仕事には、世論の後押しが絶対必要なのです。

まさに、市民とともにやっていくところが公益ですから、こうした動きを充実させたその先に造園の将来があるように思います。

祐乗坊 木を植えるときに、どういう木をどう植える、ヒートアイランド緩和や生物多様性の保全に役立つかという技術や知識を持つていけるのは造園屋で、これまでそれらの多くを仕事として発揮してきたわけ

ですが、これからはそうしたものを分かりやすく市民に伝え、協力して取り組んでいくということが大事であり、日造協が取り組んでいくことだと思えます。

そういうものを一つずつ積み重ね、トレンドやブームではない社会が求める本流への流れを導いていくことで、公益性を果たすと同時に、造園業界の裾野も広がっていくのではないのでしょうか。

五十嵐 意識改革ですね。技術や知識、そして感性を私たちは、もつと発揮しなければならぬ。ノウハウを出すことによって、分

かつてもらえる。造園を分かつてもらえる仕事がない

なかなかながら都市部では難しくなり、庭とは縁遠くなつた都市生活者や土に触れることなく、育つ子どもたちが増えてくること

が必要ですね。

祐乗坊 間違いなく造園の専門家には、そういう技術があるし、技術のレベルは見る人が見ればわかる。上手に剪定する人が手入れをした樹木は、綺麗だし、元気もいい。逆に、腕の悪い人、知識のない人だと枯らしてしまつたりもします。

そういうことも市民の方にはなかなか分かりませんが、目にしたり、聞いたり、体験する機会が増えれば、造園の目利きも増えてくると思えます。

分かりやすく市民に伝えるPR、プロモーションが大事です。「花と緑」というキャッチフレーズは、とても良いと思います。これと造園建設業をどう分かりやすく結びつけるかが、今後の具体的な取り組みなのではないのでしょうか。

五十嵐 花を造園空間に取り入れた素晴らしい空間は、以前から存在しましたが、本格的に花が造園分野に入ってきたのは、近年のことです。平成3年に大阪で花と緑の博覧会が開催され、花をふんだんに取り入れた空間を創出しました。そして、都市緑化にもつと花を使いましょうという

と花を出て、まちづくりの花が、広く取り入れられることになつたといえます。

それ以前は樹木が中心でし

た。しかし、家庭に樹木を植えることもなかなか都市部では難しくなり、庭とは縁遠くなつた都市生活者や土

に触れることなく、育つ子どもたちが増えてくることになりました。

そういう生活の中で、緑自然に触れたいという気持ちを保持する人もやはりいて、公園や里山などでのボランティアをしたいという人も増えていくのではないのでしょうか。そういう面では、これまでと違った取り組み方などもあるのではないかと

思っています。祐乗坊 多摩ニュータウンに住んでいますが、最近の新しいマンションはベランダが広く作られていて、そこで園芸を楽しんでいる人が増えていきます。

かつてのガーデニングブームは、マスコミでよく紹介されたイングリッシュガーデンや草花に憧れた人たちのブームで過ぎ去つていった感がありますが、今のベランダ園芸は野菜栽培も加わり、もつと生活感のあるスタイルになつていくように見受けられます。

自分たちの手に負える範囲キツチンガーデンなど、美しくするだけでなく、身近で植物との生活を楽しむという嗜好です。スローライフやロハスと言つた、自然と触れあう暮らしをしたいと考える人が増えていくのではないのでしょうか。このような風景を見ると、花や緑に興味を持

地域に根ざした造園だからできること

日造協 新春座談会「造園建設業は市民と仲間となる」 人々が求める「みどり」と「造園」

ていながら、育て方が分
らなかつたりして門前に立
ち止まっている人も大勢い
るのではないかと思いま
す。そのような門前の小僧
的な人たちに、手を差し伸
べて一步踏み込ませてあげ
る、ご用聞きのようにサ
ポートしていく造園屋の存
在も花とみどりの普及に大
切だし、ビジネスのマー
ケットにもなると思いま
す。

しかし、そうした個人相
手、B to Cを造園屋はこ
れまであまりやってこな
かつたから、手を出せずに
いたのではないでしょう
か。

五十嵐 先ほど中道さん
は、自然に触れる機会がな
くなつた子どもたちのお話
をされましたが、感性を育
てる場として、公園やペラ
ンダの緑などで展開できる
いいアイデアはあります
か。

中道 ガーディングブーム
はかれこれ十年位前になる
と思いますが、あの時は、
皆さんきれいなお花を求め
ていたと思います。

しかし、イギリスと日本
では気候も違いますし、想
像以上に手間が掛かつた
り、自分が思い描いたもの
を実現するための、知識や
技術が追いつかなかつたり
しました。それが、やっと
日本にあつたもの、自分に
できること、手間を掛けら
れる範囲が分かつてきたの
が最近のことだと思いま
す。

私もペランダを常に花が

咲いた状態にした時期があ
りましたが、それは大変で
す。ですから、そうしたこ
とをめざすと言うのではな
く、ちよつとした緑、植物
でもいいと思うようになり
ました。

いわゆるコンクリートに
囲まれ、無機質なもののだ
けの中で暮らすのと、公園の
緑が見えて、季節の移り変
わりが分かつたり、ペラン
ダや室内のちよつとした緑
があるだけでも、まったく
違います。新しい芽が出て
きたということだけでも、
新鮮だつたりします。

ペランダでもちよつとし
た低木を植えることは可
能であり、その足元にちよ
こつとお花が咲いていた
り、そういうものでもいい
と思います。ものすごく手
を掛けなければ育てられな
いというのは、一般の方
々には広がりません。

また、造園の方々がつく
られるものは、少し硬いイ
メージがあり、気軽に花や
緑を楽しみたいと言つ人に
馴染まない部分もあるよう
に思います。今、お庭を
持つている方々の多くは、
自分の手に負えない部分
は、プロにしてもらいたい
けれど、自分ができること
は、自分でやりたいという
人がほとんどです。で、新
しい庭でもつくり込むので
はなく、庭を使われる方が
手を加えられる余地が求め
られ、逆に欲しいのは、知
識の及ばない樹木の管理や
ベースとなる土のことだつ
たりで、そうしたことを教

えてもらえたり、何かあつ
たときに相談できるような
専門家の方々をめぐり合え
ればと思つていると思いま
す。

私たちは気軽に楽しめる
花のスペースを作ること
は、プロとしてお答えする
ことはできず、石などにな
ると到底、知識は及びませ
ん。そうしたところでは造
園の方々の協力や連携が欠
かせないと思つています。
ですから、ぜひ一緒に花

既設公園の改修、ストック活用のあり方

造園企業の社会貢献、CSRを考える

や緑の美しい日本を目指
した活動ができればと思つ
ています。

五十嵐 これからはどん
どんつくだけではなく、ス
トックの活用が大切になる
とお話をされていました
が、下平尾さんがご存知の
具体的な事例などありまし
たら、お聞かせください。

下平尾 札幌では、いろ
ろな分野で、市民との協働
の取り組みをしています。
平岡公園という総合公園で
は、市民、地域の方々が参
加し、新たに湿原をつくり、
それを管理するという取り
組みを進めています。

その活動には、大学の先
生なども参加され、管理を
する中で、自然について学
んでいくということも一つ
の大事な柱になつており、
管理と学習を両輪としたユ
ニークな動きもあります。
旭山記念公園では、これ

は改修の計画をつくるのに
大変な時間を掛けました。
オーブンハウスという小屋
をつくり、そこにいろんな
人が来ているんことを学
びながら、公園の計画につ
いて考えていくこと実施し
ました。公園は、里山的な
ところがあり、子どもたち
と一緒に間伐をして、それ
で何かをつくつたり、学習
したり、比較的規模の大
きい公園ではそういうリ
ニューアルのときに、地域
だけではなく、遠くの方々

管理に貢献しようと、シン
ポジウムの開催など、さま
ざまな取り組みを行つてい
ます。
とにかく市民参加といつ
ても活動する場がないと何
もできません。公園や緑地
また、里山などといった場
づくりに充てた公共の財産
は、出来上がった時のその
場だけの価値でなく、地域
の活動や子どもたちの学習
の場という新たな財産とな
り、さらにさまざまな価値
が付与され、永続的に発展

も来られて、公園の特色、
地域の特性を生かし、かつ
持続的な空間であるよう
に、永続的に取り組めるよ
うな方法が考えられ進めら
れています。

五十嵐 行政だけでなく、
市民・企業と協力して行つ
ていくことが欠かせないと
いう、素晴らしい具体例だ
と思います。

また、イサムノグチの設
計で有名なモエレ沼公園で
も、ファンクラブができ、
自分たちでできることは
やつていこう、公園の維持

ましたが、こうした点で鈴
木さんいかがですか。

鈴木 最近のことではな
く、10数年前から、日造協
の会員の多くが行つている
ことだと思ひますが、地域
の行政と防災協定を結んで
います。これは、台風など
の災害時、すぐに対応でき
るように待機し、樹木など
が倒れて、道路の障害とな
つた場合など、これを除
去し通行を確保したり、地
震等の災害が発生した場合
も同様に緊急の対応、復旧

な位置づけとなつたことを
示唆しています。まさに「園
を造る」造園が社会へ貢献
出来る時代となつてきたこ
とを感じます。

話は逸れて恐縮ですが、
行政の立場にお詳しい下平
尾先生に伺いたいことがあ
ります。市民の声として、
このところよく聞く話の中
に、緑化、特に街路樹や公
園内の緑に対し、見直しや
落ち葉、日当たりの問題等
で、樹木の伐採を希望され
る方、逆に生きものとして
の植物撤去に徹底的に反対
される方がいらつしやいま
すが、この二極化している
市民の声を行政ではどのよ

うにバランスをとつている
のでしょうか。

下平尾 我々行政も、せつ
かく育ててきたものを、簡
単に切つてしまふというこ
とはなく、一つ一つ現場を
みて、その状況に合わせて、
確かに見通しが悪く、防犯
上問題があつたりする場合
には、剪定したり、標識な
ども交通に支障をきたして
はいけませんので、急ぎ対
応したりしてしました。鬱
蒼（うつそう）と茂つてし
まったものは、樹木にとつ
ても好ましいとはいえない
ので、一個人の声に依るの
ではなく、全体のバラン
スを考えた対応を行つてき
ました。

た、木を切つて欲しい
という人と、過剰に木を切
ることに反対される方がい
らつしやるので、その調整
には本当に苦慮してしまし
た。なかなかすべてに通じ
る正解はなく、一つ一つ対
応し、落ち葉などについて
は、我慢していただいて、
協力して欲しいと呼びかけ
ました。

子どもたちが遊んでいる
ときに、周りから見るとい
うことはとても大事で、
周囲の灌木などは思い切つ
た整理が必要です。防災の
面でも、いざというときに
灌木があつて入れないとい
うのでは、公園に逃げ込む
こともできないので、そう
いったことについても住
民、市民の理解が欠かせな
いと思つています。

下平尾 樹木は生きもので
すから生長しますし、剪定
は欠かせないことだと思ひ
ます。

関根 整備されてから20年
から30年経つた公園も多
なつてきており、こうした
公園では、低木から中木、
高木まで、すべてが大きく
なつてしまつている状態も
見掛けます。

鬱蒼とした公園の樹木
は、見通しのために伐採す
ることが必要だと思ひま
す。ヨーロッパなどでは
見通しの確保が徹底されて
おり、公園の向こう側まで
見えて、死角がないように
なつています。
安全・安心が求められる
時代でもあり、樹木は生き
もので、大事にすることは
もちろんですが、害を及ぼ

すことがあつてはならない
ので、適切な対応が必要で
す。さらに言えば、そうい
うことを見越した設計、当
初からそういうことを住民
の方々に理解してもらつて
の公園づくりが大事なのだ
と思います。

子どもたちが遊んでい
るときに、周りから見ると
いうことはとても大事で、
周囲の灌木などは思い切つ
た整理が必要です。防災の
面でも、いざというときに
灌木があつて入れないとい
うのでは、公園に逃げ込む
こともできないので、そう
いったことについても住
民、市民の理解が欠かせな
いと思つています。

下平尾 樹木は生きもので
すから生長しますし、剪定
は欠かせないことだと思ひ
ます。

関根 生垣の話もありまし
たが、これもきちんと剪定
を行い、若干透けて見える
くらいが好ましく、大きく
茂つてしまつたために、空
き果の被害にあつた方もい
らつしやいます。ただ、植
えておけばいいというので
はなく、管理が大事だとい
うことを、はじめに伝えて
おくことも、樹木への理解
や後々の問題の種としない
ためにも大切だと思ひま
す。

CSRについて言うと、
日常の仕事自体がCSRとい
うか、社会に役立ってい
ると思ひます。
東京の国営昭和記念公園
の無料開放になつている芝
生広場を施工させていただ



関 根 武 氏

日造協 新春座談会 「造園建設業は市民と仲間となる」 プロの知識・技術を生かした協働を

花と緑のライフスタイル産業めざす

きました。この周囲には新しいマンションがたくさん建っており、ここに住んでいる人などは、自分の庭のように利用され、いつもベビーカーでお子さんと一緒に来られるお母さんや子どもたちで賑わっています。

芝生の広い空間があることで、高い建物がたくさんある中で、クールスポットになっており、ヒートアイランド現象の緩和にも役立っていることが、体感できます。こういったものも市民の方々にわかりやすく伝えることができると、同じような場所をもっと増やして欲しいということにつながっていくのではないかなと思っています。

また、これもCSRとは異なりますが、07年5月に造園建設業として日本から初めて、世界でもっとも有名な花のイベントであるチエルシーフラワーショウのガーデンコンテストに参加しました。渡航や現地での施工会社の手配など、相当な費用も掛かりますが、国際化への対応、また、日本の造園技術を改めて世界的な場所でも評価してもらうことで、逆に日本の方にも日本の造園技術やセンスが世界的なものであることをアピールできるのではないかなとのお考えもあつて取り組みました。

日本庭園は国外では高く評価され、実際に多く存在しますが、逆に日本では歴史的な日本庭園以外に関

心が持たれず、新設はごくまれです。海外のフラワーショウでの評価を機に日本の文化を見直す機会にもなつて欲しいですし、初回銀賞でしたので、次は金をめざし、日本の造園を見直す機会につなげたいと思っています。

それと、これは極端な例ですが、知人の建築の先生が悪性リンパ癌で入院しました。しかし、病院の前が公園で、毎日公園に行つて樹木の絵を描いていたので、治つてしまったというんです。本人は、樹から気をもらつて、フィトンチッド(森

緑の効果効用

わかりやすく市民に伝える

す。こうしたデータは、専門家の方々が容易に理解できても、まだまだ市民の方々には、分かりやすく伝わっていないと思います。効果効用の正しい情報を分かりやすく市民に周知する取り組みも大事だと思います。



五十嵐 誠氏

私たちは個々の作業を請け負うということもありまして、基本的にはその場所をきれいに保つということをお話いただければと思います。08年は「ガーデンアイル

もお越しいただきたいと思っています。造園屋さんの持っている技術、ビジョンに掲げているものを市民に分かりやすいように整理して、市民に発信して欲しいと思います。大学などで教える機会もあるので、そういう資料やビデオなどがあればぜひ使いたい。

もう一つ、花とみどりの感性管理。美しいもの、おしゃれなものはビジネス市場も市民もみんなが求めています。造園屋さんがみんな綺麗でおしゃれということではないですが、それぞれの企業の得意分野で力を発揮していただいたり、さまざまな専門家と連携するなど、同じお金を掛けるの

まじですが、バイオマスに興味があり、特に剪定枝などの植物発生材についていろいろ調べています。剪定枝のリサイクル利用は多くの行政で取り組みが進められています。私の住んでいる多摩地域では一般廃棄物と同じ扱いになっている場合が多々、きちんとしたデータもなく、体系的な取り組みもこれからというのが現状です。行政の役割もありますが、造園業界としても、CSRという視点からきちんと対応できる取り組みにしていきたいことが求められてくると思います。

また、我々はプロであることを改めて意識しなければなりません。どんなところでも、プロらしさを発揮しなければいけない。市民の方々はそういう目で我々をみているということを感

造園の感性

あらゆる場面で発揮しよう

中道 現在、一番身近に見ているのは日比谷公園で仕事をされている造園屋さんです。

高木の剪定作業など、私たちに真似のできそうになり技術を発揮していたり、私たちならあまりしない同じ種類の花を図面どおりにピンツと植える作業をしているのを目にしますが、特に気になるのは、その後です。

花壇のお仕事はきつと植栽、植えるだけの業務なので仕方ないことなのでしょうが、植栽後の管理はありませぬ。萎れても枯れてもそのままになっていま

能な材料を選び、夏などは雨が降らないと気になつて、作業日ではないのに様子を見に行ったりします。発注の問題で、造園業や技術の問題ではありませんが、利用者、市民からみると、きれいな花壇かそうでないかでしかなく、ちよつと残念に思っています。そういうことのないような全体の仕組みづくりも大切だと思います。

継続的な取り組みとともに、こうした何年かに一度のイベントも、これまで心のなかつた方々に理解をいただくいい機会になり、新たな活動の起爆剤にもなると思いますのでぜひ成功させたいですし、皆さんに

「花と緑」が柔らかくて、プロの仕事というところから造園をベースにしたものになるわけですが、感性を

「花と緑」が柔らかくて、プロの仕事というところから造園をベースにしたものになるわけですが、感性を

「花と緑」が柔らかくて、プロの仕事というところから造園をベースにしたものになるわけですが、感性を



「全国造園フェスティバル 2007」のもよう